「会員短信 80」

「共有」

月城花風

一昨年、東京、中野区より障害を持つ方への俳句指導を依頼された。いろいろな地域活動に携わっていることもあり承諾をする。ところが、句会ではなく一対一での指導、車椅子で生活されている方の視点に寄り添えるだろうか？などの不安が募り始めた。でも、相手の方はもっと不安であろうと思い、まずは、にこやかに初回を迎えた。

対面した彼女は、「川柳は詠んで楽しんでいたが、俳句となると、どうも上手く詠めなくて」と言う。そして、詠みためた句のノートを見せて頂いて驚いた。亡きご両親の愛情、介護士や友人に囲まれて過ごす日常への優しい眼差し、そして生活の中にある可笑しみまでもが詠み上げられている。その瞬間、これまでの不安は吹き飛び、それから彼女と共有する時間は、とても大切なものになった。

今は、総合俳句雑誌を教材に、句の鑑賞をしつつ作句指導をしている。彼女の句を紹介したい。

ひな人形しまいそびれてまだ独り
鬼夜叉の放つ言葉もマスク越し（コロナ禍）
寒の朝布団はがすも容赦なく
はたはたとはいやく入れと蚊帳の母
流行に乗り遅れたい花粉症
梅雨晴れに過労死並みの洗濯機
失せ物をあいつに訊くか油虫
Tシャツのロゴは背にあり車椅子
熱帯夜握るリモコン命綱
来ぬ人を待つふりしてるソーダ水